

NO.	テーマ	概要	1・2年次	3・4年次	ゼミナール担当者
68	組織内における人間行動やコミュニケーションを分析する	人は誰ももから組織に属している。そして、組織は個人・ハーモの相互作用によりコミュニケーションをなして存在しなっています。(7) 建築などコミュニケーションの構成要素が複数あるため、様々な問題(マネジメント、報復行動等)の要因となる。それゆえ、組織コミュニケーション(人間関係や情報交換の適切性)を分析することが重要である。このような組織内の社会現象を分析するためには、その方法論(社会調査法)も学ぶ必要がある。	小集団コミュニケーション 組織・組織情報 社会心理学A・B ミクロ経済学 社会心理学A・B 統計学A・B 社会調査法A・B ジェンダー論・異文化心理	組織コミュニケーションA・B 組織・情報 NPO論 意思決定論・組織行動心理学 不確実性下の人間行動 異文化間コミュニケーション 社会調査実習・質的研究法 データ解析法・I・II	山口生史
69	地球上に進化した動物としての人間を理解する	私たち人類は、6000万年ほど前に地球上に現れたサルの仲間から進化した。そして、280万年前から練り返し譲ってきた水河期の中、猿が猿として生きる知識を向かせ、文明を形成するに至ったのである。その過程では、さまざまな種類や動物との共存関係が形成されてきた。他の動物と比較して人間の特徴とは何か、その特徴はどのような生活環境がもたらしてきたのか、そして文明の進歩で直面する、人間が不得意なことは何か、こうしたことについて理解を深めてみよう。	地球環境科学 環境生物学 生態論 人文学A・B 脳科学	身体と意識 認知科学 I・II 自然地理学	石川幹人
70	脳はコンピュータなのか?	脳科学が急速に重要な役割を果たす時代になった。一方で、脳の解明が進み、人間の感情や思考がどの部分の神経回路によって形成されるか、判別できる。頭を切ると、コピーピースのものな記憶の仕組みが見える。ならば、自覺的の意識や意識をもつている私たちも、機械にすぎないだらうか。自由な意志がなければ責任を負うことなどできないはずである。現代のこの大きな問題をつまづいて考えてみよう。	情報科学 心理学A・B 脳科学	科学技術と人間 心理学 I・II 身体と意識	石川幹人
71	科学技術はどうによる情報社会を創ってきたのか?	印刷・電気通信・写真・テレビ・電話など、多くの技術開發が、今日の情報社会の形成に寄与してきた。それによって人間の生活様式や集団活動の方法が変化してきた。これらがまさに変化していくことだろう。高齢な情報社会に生きていく私たちは、この流れをつかむことが求められている。それに、まずは過去の歴史をつかむことが近道である。	科学技術史 科学リテラシー	科学技術と人間 情報社会論 A・B メタバース・脳・安全 情報システム論	石川幹人
72	ダイバーシティとともに働くことを考える	人口の減少により長らく基幹産業者は足掻かれてきたが、これからまた起きる変化についてここにどうぞ。高齢な情報社会に生きていく私たちは、この流れをつかむことが求められている。それに、今後ますます多様化が進むと思われる社会における働きやそのような社会のあり方について考える。	経営学 組織論 異文化理解 社会心理学 小集団コミュニケーション ジェンダー論	ジェンダー・マネジメント I・II 組織コミュニケーションA・B 異文化間コミュニケーション 人権と政策 ユーザーサーデザイン	根橋玲子
73	多文化共生の現状と課題を考える	多くの型での労働不足などを理由に移転の受け入れが加速され、表面的には多文化共生を促進する取り組みがなされてきた。しかし、移住の受け入れは失敗だと明言するリーダーがいるように、社会的な差異や文化の衝突などの問題も指摘されている。日本でも多文化の実践性が進み国外にいる人々は増え続けている。本モジュールでは日本の多文化共生の現状を理解し、多角的に考察する。	比較文化（基礎）A・B 比較文化論 コミュニケーション論 法学 社会心理学A・B 小集団コミュニケーション	個人と国家 国際政治学 地域文化論 多文化と相互理解 I・II 異文化間コミュニケーション 社会福祉A・B	根橋玲子
74	「くいのち」や「生き方」について倫理学や哲学・思想の視点から考える	「生命とはいいたい何かの」についていろいろな立場について語り下ろす。ちなみに、当該部の担当理念には、現代社会の特徴と課題と解決策を学ぶ倫理学・思想・哲學を基盤として、社会倫理学・経済・政治などの社会科系の教員から学ぶ「統合的」の教育とされることがある。倫理学や哲学・思想を基礎として、様々な問題を見つめることをやってみよう。	生命論・B 哲學 宗教 社会心理学A・B 家族社会学論 組織論	生命思想史 I・II 倫理学 記号論 身体と意識 比較文化	岩瀬輝
75	「くいのち」の観点から人間と社会を考える	現代社会には、脳死・臓器移植、安楽死や尊厳死、孤獨死や孤立死、出生前診断や人工妊娠中絶、デザイナーベビーや遺伝子操作(クローン・多能性幹細胞)、環境問題や公衆衛生、食品安全や医薬品の安全の問題など、「くいのち」にかかわる実りさまざまな問題が存在する。また、世界に目を向ければ、紛争や内戦などから多くの命が失われている。本モジュールでは、「くいのち」に関する様々な問題を字ながら人間と社会について考えに至りてみて。	生命論A・B 哲學 宗教 社会心理学A・B 家族社会学論 組織論	生命思想史 I・II 倫理学 科学技術と人間	岩瀬輝
76	新型コロナ禍症候群によって私たちの社会空間はなにが変わったのか	人間の歴史を見ると、深刻な伝染病の拡大が社会を大きく変えてきたことは何度もある。行動制限、社会的距離、清潔感、あらゆる会員と社会的交流の減少は偶然ではなく、喪失感は、人と人の相互行為のありかたそのもの第1に変えてしまった。このことは、接種の人物たちなら社会空間、公共空間への関わり方や、その変化を変えてしまうものも知らない。これまでの「ノーマル」とこれまでの「ノーマル」の傾向について考える。	社会学A・B 社会心理学A・B コミュニケーション論 哲學 ジェンダー論	メディア論 コミュニケーション思想史 社会思想史 倫理学	宮本真也
77	ヨーロッパ社会のあり方をヨーロッパ社会の現状と比較する	同じ先進国であり、第二次世界大戦での敗戦国であり、もののづくりの難産や低迷させ日本とドイツはよく比較される。しかし、個人の平均労働時間が日本よりも少ないにも関わらず、国民一人当たりの国民総生産は日本を上回り、脱原発を決めて再生可能エネルギーの開拓を行なうヨーロッパは、日本は暮らしの主婦かそれ以上が手を貸すが中國よりも言える。少女のヨーロッパ化のままだらけ頭を頸き、異なる思想を採用するに違いない。その背景にある情報社会のパラダイムを知ることが、今後の動向を予測するためにも必要である。	社会学A・B 西洋史概論 外洋史学	コミュニケーション思想史 社会思想史 地域文化論（ドイツ）	宮本真也
78	人間は社会について何を考えてきたのか?	有史以来、人間は自分たちが生きる社会について、それぞれに理想を描いてきた。それが個別の社会を作る基盤になることもある。他の社会に対する理解になると、もある。社会の内面ですら、対立と競争の火種になることもあった。日本社会は、政治や経済などの社会科系の教員から学ぶ「統合的」の教育とされることがある。対立の回避や共存の道を探るためにも、思想のヴァリエーションを知りおきたい。	政治学 比較文化（基礎）A・B 宗教学 哲學 人文学A・B	コミュニケーション思想史 倫理学 経済思想史 社会思想史 現代政治学 II 国際経済学A・B	宮本真也
79	情報社会の思想的基盤を構築する	現代社会は言うまでもなく、情報社会である。この社会は、人間の生活の多様多様で、より深い部分にまで「情報化」が進んだ社会と言ってよい。こうした運動が実現するのも必ずしも然然的なのではなく、私たちの歴史の中で培い選り取ってきた思想的・方針付けが作用している。具体的な技術や現象に目を奪われず、その背景にある情報社会のパラダイムを知ることが、今後の動向を予測するためにも必要である。	哲學 メディアアート メディアリテラシー 情報倫理	メディア論 情報社会A・B メディアの歴史	宮本真也
80	思想の背景としての宗教への信仰	現代という時代は投票権化の過程の延長線上にあると思われてきたが、昨今の国際情勢を鑑みれば、非合理的な思考はとうてい影響力を持ったとは言えない。国際化・グローバル化が進むほどに、宗教的な差異が異なる社会どうし、そして同一の社会内部で対立を生みだしてきていることは、明白である。この実情の正確に把握するために、宗教の歴史と現在について理解しておこなわれる。	社会学A・B 宗教 美学と藝術 西洋史概論 人文学A・B	地域文化論（中国・朝鮮・スペイン・イスラーム） 多文化と相互理解 I・II	宮本真也
81	東南アジアを地縁として現代社会の課題を考える	国際交流プログラムで実際に見聞したり交換したりする機会があるタイプなど東南アジア諸国を含め、SDGsなどでも取り上げられる水資源の問題、衛生問題など様々な課題が気になります。一方で、日本の常識と世界の非常識とも言える現状もまた、近年若者たちが伝統的価値觀や強塗的な政治方に声をあげている。彼らとの交流は大きな刺激となるだろうし、発展途上だからこその特徴を引き出したり、私たちのやり方を押し切ることなく、課題解決を図るためにどうしたらよいだろう。	マクロ経済学 ミクロ経済学 新興国事情 国際交流	国際経済論 A・B ソーシャルビジネス論・NPO論 地域文化論 多文化と相互理解 I・II 異文化間コミュニケーション	和田 哲
82	情報技術利用の高度化に対するスキルを考える	近年はAIが様々な場面で用いられているが、学習に用いられているデータに偏りがあるが、判断結果にも偏りが出る。幅広く利用可能なものはするにしても、狭い意味での属性をもつて偏りがある場合が多い。そのため、国際化などを通じて異なる文化や価値観を持つ異なる民族や文化の違いを理解するためには、多文化に対する理解が重要となるだろう。発展途上だからこその特徴を引き出したり、私たちのやり方を押し切ることなく、課題解決を図るためにどうしたらよいだろう。	社会学・哲學 情報倫理 メディアリテラシー 新興国事情 国際交流	情報社会・教育 情報社会・安全 多文化と相互理解 ユニバーサルデザイン 情報産業論	和田 哲
83	合理性と人間性とのバランスがされた意思決定をするためには?	地球環境を破壊したでは、人間は生き残れない感じをしている。同時に、人間は個人的な夢も追い求めたい。岡立せるために、は、どうしたらいいのだろうか。それを考へるために、は、誰かの判断基準に基づく、複数の判断基準をもつて自分の意見を他者に理解してもらうための技術の修得をしないといけない。そのうえ、何らかの行動規範の未だ、自分なりに納得できる、人間らしいバランスの中で生きる道筋を見つけるのも、挑戦する相手だ。過去の自分の意見を決定スタイルだ。	社会心理学 地政学 脳科学 クリエイティブ・コミュニケーション 科学リテラシー	意思決定論A・B 消費者行動論 認知科学 不確実性下の人間行動 リスク社会論	熊田聖
84	不思議現象を科学する	幽霊やUFO、雷などの目撲報告や、交説ができるとか超能力が發揮できるとかの主張を耳にする。それらの不思議現象についてどのように考えればよいのだろうか。ひとつには心理的な観察や記憶について、もうひとつには社会的な流言現象として説明できる。しかし、それらの説明だけでは信憑性をもつてはならない。信憑性とは何か、そして科学的な説得的有效性と限界はどこにあるかを、深く考えていく。	心理学A・B 社会心理学A・B 人文学A・B 脳科学	身体と意識 不思議現象の心理学 認知科学 I・II	蛭川立
85	ソフトウェアを理解する	私たち自身の周りで多くのソフトウェアが利用されている。これらのコンピュータ上で動作するソフトウェアA・Bは、できるだけ不公平な扱い方をしないようにしてほしい。しかし、その上に大きな問題がある。つまり、大企業が、地図作成や位置情報などを扱う場合に、個人の個人情報を漏洩するリスクはない。この状況下では、ソフトウェアの仕組みや作業方法を理解することでソフトウェアの特性や問題点を理解し、さらには情報社会における問題点を理解することも目的とする。	プログラミング実習 I・II 専門会話リテラシー 情報倫理	情報システム論 情報デザイン論 アルゴリズム実習 I・II	山崎浩二
86	メディアにおける都市のイメージを分析する	都市のイメージは、建築物のみならず、写真、雑誌、映画、テレビ、広告、SNSなどのさまざまなメディアに媒介されて形づくられている。実際に訪れたことのない外国の観光地に興味を抱くことがあるのはなぜだろうか。諸外国から見た東京や他の都市のイメージ、どのようなものか、都市のイメージの情報は、観光地とどのように結びついているだろうか。都市のイメージが生成、消滅、再生成される仕組みについて、またなぜメディアで影響を受けるものかを観察する。	社会学A・B 都市情報論 人文学地政学 アート・マネジメント メディア批判 地政学	都市情報論 人文地政学 アート・マネジメント メディアの歴史 記号論	南後由和
87	情報社会における商業空間の経験について考える	コンビニ、エキナカなどの時間節約型の商業空間の一方で、半日以上過ごせるようなショッピングモール、ブックカフェなどの時間消費型の商業空間も増えている。このような一見、相矛盾するようなことが起きているのはなぜだろうか。現代の商業空間のあの方には、EC市場の大半はどちら、ビッグデータの活用、インターネットやスマートフォンの普及とともに多くの私たちの時間・空間変容の変化などが関係している。私たちが日常生活において利用している商業空間の経験について考察する。	社会学A・B 社会心理学A・B 情報社会と経済 メディア・アート	都市情報論 人文地政学 アート・マネジメント 情報と経済活動 メディア論	南後由和
88	デジタル地図がもたらす影響を理解する	地図は、地図に関する情報の整理、蓄積、創造、伝達のシステムである。地図は、戦争などを利用する権力のあるもので、一方で、私たちの生息世界をめぐる地理学や地図を決定している。Google Mapなどのデジタル地図やAR（拡張現実）の登場は、私たちの日常生活における行動に、どのように変化をもたらすのだろうか。古今東西の地図といふメディアの仕組みを理解したうえで、デジタル地図がもたらす影響を考えることをとおして、地理学的意義を養う。	地理学 メディア・リテラシー メディア・アート	人文地理学 都市情報論 アート・マネジメント 地形表現論	南後由和
89	格差を生み出し、維持する心理的メカニズムを理解する	格差の存在は、不利な立場に置かれる人々を苦しめるばかりでなく、有利な立場の人々にも悪影響を及ぼす。格差が社会関係資本の量を増やす一方で、社会的・政治的・経済的・文化的な格差を解消するなどして進むべきだ。これは制度的な不平等ばかりではなく、格差の存在を合理化して維持しようとする心理的メカニズムが寄与している。格差の解消のための社会的合意をいかに引き出すかを、心理学者の観点から考察する。	社会学B 社会心理学A・B 社会調査法A・B ジオ・ソーシャル 新興国事情 統計学A・B	ジェンダーと社会A・B 家族社会学 ユニバーサルデザイン 現代政治学 I・II 人権と政策	脇本 寛太郎
90	経済行動を個の視点から理解する	物やサービスを購入する時、通常我々は選択肢について十分な情報を持たない。そのため、様々な方法で情報収集を行なう上で選択肢を評価する時とするのであるが、そこには人間の考え方のクセや歪みを科学的に理解し、合理的な判断を支援する方法を探求する。	ミクロ経済学 社会心理学A・B 社会調査法A・B マクロ経済学 統計学A・B	不確実性下の人間行動 情報と経済行動 消費行動と心の科学 広告論 意思決定論 A・B	脇本 寛太郎
91	偏見、差別、紛争の心理的メカニズムを理解する	紛争の解決は社会学の重要な課題の一つである。しかしながら、現実には世界各地で紛争が継続化されている。また、平等主義の重要性がめざめ、社会的不平等をめざす動きが出てきている。このように、社会的・政治的・経済的・文化的な格差を解消するためには、格差の存在を認めねばならないが、格差の存在を合理化して維持しようとする心理的メカニズムが寄与している。現実に格差を生み出すかを、心理学者の観点から考察する。	社会学A・B 社会心理学A・B 社会調査法A・B 異文化理解 統計学A・B	社会文化史 社会心理学A・B 社会調査法 A・B 地理政策 I・II 多文化化・相互理解 I・II 異文化間コミュニケーション史 統計学A・B	脇本 寛太郎
92	自然と社会の狭間に生まれるリスクの実態	自然災害や環境・公害問題のように、個人を超えた社会として直面している種々のリスクは、たとえば産業革命期の工業化発展が大気汚染をもたらしたように、自然と社会の競争的・資源的・社会的・経済的・政治的・文化的な複数のリスクが複数ある。その背景を理解するうえで、多角的な視点で問題をとらなければ、正確に理解することはできません。本モジュールは、このよう複数の問題をとらえていため、多角な学問分野の知識の交換を通して、広い視野と直面した洞察力、そして調査の技術を獲得する連携を目指すことを示す。	社会学A・B 社会心理学A・B 社会調査法A・B 地理学 環境A・B 社会心理学A・B 地政学 統計学A・B	リスク社会論 自然地理学・人文地理学 環境政策 I・II 社会調査法 A・B 社会心理学 A・B 社会地政学 資源の調査と分析法 データ解析法 I・II	小林秀行
93	社会の多様性がもたらす問題解決の困難さを理解し、より解決の可能性を考える	社会には多様な人々が生きており、その求めることも様々に異なるが、社会において何らかの決定を下す際にも、多様性をすべて取り扱うのが難しいのがである。このような現象のなかで、多様な立場の人々が組み合って何らかの手段をもつて、社会をより良い方向に導くことを目指すのが本モジュールの目標である。本モジュールは、行政実務やNPOなどの社会的組織を、社会の在り方といった集合体・個人の考え方を理解しながら、1つの立場にかたまりぎるところなく、科学的なアーティストに基づき調整を図っていくための基礎を学びます。	クリエイティブ・コミュニケーション 小集団コミュニケーション 科学リテラシー 統計学A・B	リスク社会論 コミュニケーション思想史 NPO論 政策過程論 意思決定論 I・II 組織と情報 不確実性下の人間行動	小林秀行

NO.	テーマ	概要	1・2年次	3・4年次	セミナー担当者
94	「文系のデータサイエンティスト」を目指す	許今では「ビッグデータ」ないしは「機械学習」や「人工知能」という言葉が注目されている。いずれも基礎的な統計的手法とICT技術に裏打ちされたものである。一見、いずれも文系の学生からは敬遠されがちである一方で、獲得・整理されたデータは「文系の知識」による解説が求められることがある。また、こういった業界に務めるためには情報産業に関する知識も必不可少となる。データ分析のための理論と実践をつなげて学ぶことを目的とする。	科学リテラシー 統計学A・B 数理リテラシー 専門情報リテラシー（心理統計/社会統計） 社会心理学A・B 行動経済学A・B プログラミング実習I・II	データ解析論・II 情報産業論 イノベーションの経済学 情報と職業	後藤 晶
95	「よりよい社会」を実現するためには現実を知り、理想を考える	何をもって「よりよい社会」というかは難しいが、少なくともこれから社会の方向性の1つは人間の行動特性を踏まえた制度設計が必要となるであろう。そのために、行動の現象の記述を試みる「心理学」系の科目を学ぶとともに、行動の理解を示す「经济学」や「社会学」系の科目を学ぶ。そしてどのように現実と理想のギャップを埋めるか「政策」的な考え方を学ぶ。	ミクロ経済学 クリエイティブコミュニケーション（行動経済学） 社会心理学A・B 心理学A・B 脳科学 社会学A・B	不確実性下の人間行動 情報と經濟行動 消費行動の心理学 意思決定論A・B 認知心理学・I 公共政策A・B	後藤 晶
96	社会調査士の資格を取得する	本学部では社会調査士の資格を取得可能である。社会調査士は調査企画から報告書作成までの社会調査の一連のプロセスを学ぶことを行う資格であり、社会調査士の資格を取得しながら自身の興味のある学問を追跡していくのも一つの方法である。「データ解析論/I」と「質的調査分析法」はいずれかを履修する必要があるが、アンケート調査などの量的研究に興味がある方は「データ解析論/I」を、インタビュー調査などの質的研究に興味がある方は「質的調査分析法」の履修を推薦する。	社会調査法A・B 専門情報リテラシー（心理統計・社会統計） 統計学A・B	データ解析論・II 質的調査分析法 社会調査実習	後藤 晶